

# 「通信使友好とビジネス」

## 徳川みらい学会 静岡商議所 小針・県大教授が講演

徳川時代の歴史的意義を検証、発信する「徳川みらい学会」と静岡商工会議所は23日、朝鮮通信使を題材にした講演会を静岡市駿河区で開いた。県立大国際関係学部の小針進教授が「日本と朝鮮半島―近世と現在を俯瞰(ふかん)する」の演題で話した。

江戸時代に徳川幕府を訪れた通信使は友好



朝鮮通信使に絡めて現代の世相を話す小針教授  
＝静岡市駿河区

の象徴ともされる。小針教授は、偵察や権威の誇示など両国に關係維持への思惑があったことに触れ「友好とビジネスの両面があつた」と解説した。現代に話を移すと、新型コロナウイルスへの対応がアジア各国で分かれ、協力關係が進まない状況を説明し

た。国民の往来が激減しているデータも示し、日韓關係の悪化が深まる可能性を指摘した。

一方で、韓国の映画やドラマが日本でブームを呼び、日本の小説やアニメが韓国でもヒットしている現象を紹介し「互いの大衆文化への興味に希望がある」との見方も。日韓共同で躍進する音楽プロジェクトを挙げ「相互の補完性や必要性を認識するアプローチが両国の關係にも求められる」と語った。